

授業科目 NO. 507 ウィメンズヘルス看護学実習

Women's Health Nursing Practicum

授業の形態： 実習
単位数（時間数）： 2単位（90時間）
開講年次・学期： 3年次・前後期
必修・選択の別： 必修
キーワード： ライフサイクル、周産期、正常・異常、親役割、家族の再構築、看護過程、母性看護技術、ハイリスク、女性特有疾患

1 金沢医科大学看護学部の到達目標（全科目共通です）

- ① 豊かな人間性と倫理観
- ② 看護学の知識と技術、及び実践力
- ③ 地域志向を視野に入れた専門性の獲得
- ④ 生涯学習能力
- ⑤ 国際的視野の獲得

2 学習目標

1) 一般目標（GIO）

各ライフサイクルにある女性を対象に、リプロダクティブヘルス/ライツの視点で健康の保持・増進につながる基礎的な看護実践能力を養うとともに、主に妊娠・分娩・産褥期における母子とその家族を通し、周産期にある対象の身体的・心理的な特徴と健康課題への理解を深める。また、対象に対して倫理的配慮をもって看護を実践する能力を修得する。さらに、看護を提供する際に必要となる多職種との連携や社会資源の活用について学修する。

2) 行動目標（SBO）※カッコ内の数字は上記の金沢医科大学看護学部の到達目標との関連を示す。

<受持ち実習>

- (1) 褥婦と新生児またはハイリスク妊婦（胎児）に応じた看護計画を立案できる。(②③)
(周産期の受け持ちが不在の場合) 女性特有疾患にある対象の理解を深める (②③)
- (2) 看護計画に基づき、安全で適切な援助が実施できる。(②③)
- (3) 実施した援助について評価し、必要に応じ看護計画の追加・修正ができる。(②③)
- (4) 学生が複数で事例を受け持つ場合は、チームとして機能することができる。(②)

<産婦人科外来実習>

- (1) 妊婦健康診査・保健指導の見学をとおり、妊婦と胎児の健康管理について説明できる。(②)
- (2) 産婦人科外来実習の見学を通し、女性特有疾患を知ることができる。(②)

<周産期実習・婦人科実習>

- (1) 分娩期実習（見学・事例）をとおり、分娩時期と対象に応じた援助について説明できる。
(②)

- (2) 新生児の全身の観察を実施し、胎外生活適応および新生児の生理的変化についてアセスメントできる。(②)
- (3) (2) のアセスメントに基づき、安全で適切な新生児への援助が実施できる。(②)
- (4) 妊産褥婦および胎児・新生児とその家族（以下、対象）を尊重して関わることができる。(①②)
- (5) 対象と適切なコミュニケーションが取れる。(①②)
- (6) 対象の愛着形成についてアセスメントし、援助ができる。(①②)
- (7) 対象の新しい家族の再構築について理解し、援助ができる。(①②)
- (8) 対象の退院後の生活に応じた、社会資源の活用について説明できる。(②③)
- (9) マタニティサイクルの時期の母性看護の特徴・役割について説明することができる。(①②)
- (10) 女性特有疾患の特徴について説明することができる。(②)

<実習態度>

- (1) 教員・指導者に適時、挨拶・連絡、報告、相談ができる。(①②④)
- (2) 積極的に自己学習し、自己研鑽ができる。(②④)
- (3) 日々の振り返りをとおして行動修正することができる。(②④)
- (4) カンファレンスで活発に意見交換できる。(②④)
- (5) 自己の健康管理ができる。遅刻・無断欠席をしない。(①②④)
- (6) 記録物を期限内に提出できる。(①②④)

3 学 習 内 容

実習の内容については、実習要項に示す。

4 評 価

評価項目	評価割合
定期試験成績	%
実習成績	90%
レポート(事前・追加学習)	10%
授業態度	%
小テスト	%
口頭試問	%
その他	%
合計	100%

5 教 育 担 当 者

科目責任者：神崎 光子

教 授	神崎 光子 (母性看護学・助産学)
嘱託准教授	北濱 まさみ (母性看護学・助産学)
講 師	三反崎 宏美 (母性看護学・助産学)
助 教	林 智美 (母性看護学・助産学)

助 教 須藤 久実 (母性看護学・助産学)

助 手 大嶋 舞香 (母性看護学・助産学)

6 教育担当者の実務経験

本科目は、母性看護学領域での実務経験のある教員が担当する。

7 教科書

ウィメンズヘルス看護学概論、疾病・治療論Ⅶ、ウィメンズヘルス看護学方法論Ⅰ・Ⅱの教科書及び講義資料

8 推薦参考書

ウィメンズヘルス看護学概論、疾病・治療論Ⅶ、ウィメンズヘルス看護学方法論Ⅰ・Ⅱで紹介した推薦参考書

9 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

- 1) 実習開始日に事前学習ノート（講義課題）を提出すること。
- 2) 実習要項を熟読し、必要な事前学習を十分に行うこと。
- 3) ウィメンズヘルス看護学方法論Ⅱで学習した看護過程・母性看護学技術を十分に活用できるよう、復習と技術を鍛錬して実習に臨むこと。

10 課題（試験やレポート等）に関するフィードバック

実習に関しては、実習記録を基に到達度や課題を実習最終日に個別にフィードバックする。

11 履修上の注意事項

- 1) ウィメンズヘルス看護学実習要項およびオリエンテーション資料、臨地実習における個人情報保護に関する取り扱いを理解して実習に臨むこと。
- 2) 健康管理には十分注意すること。

12 オフィスアワー等

担当教員が、実習中や前後の時間などで質問を受付ける。

または、科目責任者までメールで連絡すること。

連絡先：kanzaki@kanazawa-med.ac.jp